

平成28年度みつわ会東北支部総会&懇親会開催

総会

新支部長を選出し、新体制で新たなスタート

5

月24日午後4時より、みつわ会東北支部総会がシェルブール仙台店において30名の参加者のもと開催されました。

初めに美馬支部長より、①40周年記念誌を作成し本日お渡しすることが出来た。②

役員改選の時期を迎え、今回を持って支部長を降りることにしたい。③今回の熊本地震に対し、東日本大震災の際の支援に対するお返しの気持ちとして、九州支部への応援（お見舞金）の募金を行いたい。と、挨拶がありました。

.....

一

般経過報告は、支部関係に関し佐藤幹事より行われました。主要な活動は、前年度実施された行事を踏襲して行われた中で、前年バスツアーで実施した移動例会は費用の関係でJRを利用して塩釜方面への旅行を実施しました。

みちのく損保関係は田中幹事より行われました。同クラブは会員数189名で、内みつわ会会員は18名です。活動は7部会

の主催で多岐にわたり実施され、みつわ会からも多数の参加がありました。

会計報告は長谷川幹事より行われました。事務関係費などは極力抑制を図ったものの、単年度若干の赤字となり、また、次年度40周年記念誌費用の支出もあり、厳しい状況は続くと思われま

す。会計監査報告は柿沼会計監事より、適正に処理されていると報告がありました。

.....

議

案審議は、次の5議案について審議されました。

- ① 平成28年度活動方針：「健康を維持し、社会との関わり合いを保つために」会員同士の情報交換をはじめ、前年度方針を踏襲していく。
- ② 平成28年度支部役員：今期は役員改選の年であり、新体制案について説明がありました。主な内容は、支部長：佐藤賢一、新幹事：村田・阿部・藤沢の3名、会計監査：涌井です。

- ③ 支部創立40周年関連行事：40周年記念誌「これからも・・・」の刊行をもって40周年関連行事とする。
- ④ 28年度長寿祝贈呈対象者：支部にてお祝いする「傘寿」は、清和才二さん、渡邊富夫さんの2名です。（本部でお祝いする対象者数は、古希：0名、喜寿：4名、米寿：1名です。）
- ⑤ 支部会員数：4月1日現在、今年度入会の2名を加え、男性会員58名・女性会員20名の合計78名です。

以上について審議が行われ、承認されました。（詳細は総会議案をお読み下さい。）

その後、新旧役員の挨拶が行われ、総会は無事終了しました。



みつわ会東北支部創立40年総会

<出席者：34名の皆さん>

(後列・左) 美馬五郎、鹿野倫司、桑野健二、田戸損サ部長、橋本芳美、大川雅隆、鈴木久教、長谷川昌彦、藤沢敏夫、村田博、押部推進役、大窟事業部長、

(中列・左) 田中栄、渡辺富夫、斉藤勝子、鳴原壮、長井輝夫、佐久間雄二、大久保和彦、清和才二、小林亮、涌井進、阿部靖、藤澤敏夫、柿沼幸男、佐々木勝邦、加藤徹三、

(前列・左) 千葉三千代、佐藤賢一、星利夫、村島社長、佐藤稔、丹治博、千葉繁明、

記念誌

「40周年記念誌 これからも・・・」が完成・配布

み つわ会東北支部は1975年(昭和50年)12月26日に誕生し、昨年12月で40年を迎えました。「創立40周年記念関連行事(記念誌作成)」が昨年度の総会において承認され、その後、多くの方々のご協力によりこのたび記念誌が完成し、総会出席者に配られました。誌名は前回の30周年記念誌が「振り返ってみれば」でしたが、今回はみつわ会の更なる発展を願い「これからも・・・」とされました。

記念誌は25名・27作品で構成されており、その内容は、日新火災時代の思い出や今どのように過ごしているか、終戦直後の進駐軍とのエピソードや原発事故で復

興もままならない福島への思いなど、多岐にわたり、また、昨年11月に亡くなられた「大矢一夫さん」の作品も遺作として掲載されています。

また、東北支部のこれまでの歩みや歴代支部長の名前も掲載しています。

なお、総会に出席出来なかった方々には、支部便りとともにお届けしますので、どうぞご覧下さい。



懇親会

みんなで過ごした楽しいひと時、来賓に村島社長も



懇 親会が始まる前に、白井力様・星利夫様、村島社長よりご祝儀をいただいたことの紹介があり、参加者全員から感謝を込めて盛大な拍手がありました。



加藤幹事の開会宣言で幕を開け、小林亮さんの乾杯の音頭で会は進みました。

村島社長、大窟南東北事業部長、田戸北海道・東北損害サービス業務部長、押部南東北事業部推進役が来賓として

出席され、村島社長からはお祝いの言葉をいただくとともに、熊本地震の対応や今年度の決算などについてお話がありました。

今年度「傘寿」を迎えられる清和才二さん・渡邊富夫さんに、佐藤新支部長よりお祝い金が渡され、お二人それぞれからお礼の言葉と近況報告がありました。2014年における日本の平均寿命が男性80.50歳になったとはいえ、お二人とも本当にお元気です。



恒

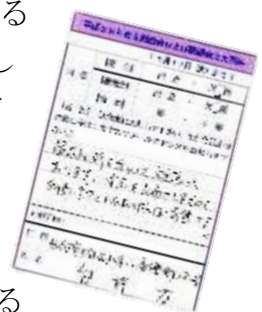
例となった鹿野さんの「どじょう掬い踊り」。さすが、老人会などから



出演依頼が舞い込む力量（詳しくは記念誌P24をご覧ください）。ひょうきんな踊りと表情に、参加者全員で大笑いしました。

総会の出欠の連絡の際に、多くの方が近況もあわせて報告されており、その一部がご便りとして紹介されました。「総会へのお祝いの言葉」「病

と上手に付き合っている今」「老人会に元気に参加している」「機会を見つけてみつわ会の行事に参加したい」「元気に介護の仕事が続けている」など、会員一人ひとりの今に触れることが出来ました。



中締めは丹治さん。村島社長の若かりし頃、ゴルフコンペの幹事を一緒にしたことなどに触れ、「日新火災の益々の発展とみつわ会会員の健勝を祈念いたします」と結びました。

新体制で気持ちも新たにスタート

先の総会において、新役員・新組織が決まりましたので、ご報告いたします。

■ 幹事一覧

- 支 部 長：佐藤賢一
- 副支部長：美馬五郎、田中栄、長谷川昌彦
- 幹 事：清和才二、大久保和彦、加藤徹三、柿沼幸男、村田博（新）、桑野健二、阿部靖（新）、藤澤敏夫（新）
- 顧 問：星利夫
- 会計監事：涌井進

■ 支部専門部

- 事業部長：長谷川昌彦
- 行事・組織対策部長：佐藤 賢一
- 広報部長：桑野 健二
- 会計・庶務部長：田中 栄



佐藤賢一新支部長 就任あいさつ なによりも楽しくあれば、それが最高

この度、みつわ会東北支部長をお引き受けすることになりました。先の支部だよりでご案内のとおり、菊池武史さんに内定していたのですが、菊池さんに健康上の事情が生じて、急遽お引き受けすることになったものです。この数年、支部は美馬さん、涌井さんを中心とする世代に支えられてきました。

今回の件で我々～昭和48年から50年入社組に、その役割が廻ってきたものと考えています。私は入社こそ、48年の期中に仙台支店で拾っていただいた者ですが、会社生活の内20年を北海道で過ごし、会社生活の本籍地は北海道のような思いがあります。表現が適切かどうか判りませんが、私のようないわば外様より、支部長として相応しい方が同世代にも沢山いらっしゃいます。上に記した昭和48年から50年組が、集団として責任を担うような形になるのかなと考えています。

私は定年後、文化財関連のボランティア

活動をいくつかやっております。雑用ばかりで、時間的な余裕がありません。そこで、みつわ会の実務の面では、年代の近い皆さんに応援して頂けるということで、この世代の中で、当面自分がワンポイントリリーフを引き受ける判断した次第です。美馬さんのように、身も心もみつわ会に捧げることはできそうにありません。また哲学もない男ですので、みつわ会に何か新しいことをつけ加えることもできません。美馬さんの作られた路線をしっかり踏襲していきたいと思っております。

この4年間、宴会係として静かに(?)活動させて頂きました。奇数月の昼食会では、出席者名簿のレジメに、長谷川権の新書から時節に合った詩句を引いてきて載せるのを無上の楽しみとしていました。これができなくなるのは、若干さみしいことです。

ともかくOB、OGの会です。「なによりも楽しくあれば、それが最高」この信念で微力を尽くしたいと思います。よろしくお願いいたします。